

ピアホームだより

2012.12.10

第34回顧問白石先生主催の交流会に参加

11月11日(日)、渋谷区総合ケアコミュニティ「せせらぎ」で「家族と専門家の交流会」が持たれました。

午前中は、家族からの質問を受けて情報提供をし、午後は、白石先生の大学院講座に通われた知的障害児を持つ内田さんの「親亡き後」への対応としての「離家」の講演でした。知的障害者の家族は積極的に立ち立ちを促している様子をご報告いただきました。家族、特にお母さんは、本当に「離家」に当たり複雑な感情を持たれている様子が分かりました。お母さんらしい細やかな感情を持ってインタビューを行いまとめ上げたもので、送り出した後の母親の気持ちには、私も涙を誘われてしまいました。

講演が終わった後、本日のお話を基にグ

ループをつくって話し合いました。私はGHを運営していますので、今回は、そのことを題材に、障害児(者)をひとり立ちさせていこうと思う親の気持ちを聞くことができました。

親亡き後が心配、でも、親自身も中々踏み切れない—そんな思いを強く感じました。

本当に心配なんです！—綺麗なところに住ませてあげたい！良い世話人さんだろうか？美味しいご飯を食べさせたい！—親としての思いが、二の足を踏ませているようです？

質問から

① 保護者亡き後の本人の処遇について今から準備しておくことは？

1 親が元気なうちに検討する。

2 ネットワークづくり

親族・社会福祉協議会・専門家など

3 子供の将来について、身上看護、経済的支援、財産管理の観点から考える。

4 社会福祉協議会のサービスの活用
法律相談、専門家紹介、書類預り

5 任意後見制度、成年後見制度について考える。

② クロザニル(クロザピン)の臨床試験につ

いて

治療抵抗性の患者さん対象のお薬です。

対象が限られるため、少ない症例できちんとした評価方法で治験しました。従来から言われているように、このような患者さんにも一定の効果がみられることを科学的に実証しています。

③ 統合失調症の死亡原因

大塚製薬でまとめた海外文献では、61歳の平均寿命、自殺が10%を越え、血管障害による死亡者の割合が対象者の2倍以上でした。

④ 統合失調症発症のリスクとポストトラウマティックグロース

児童精神科医の夏莉郁子さんは、母親が統合失調症でした。やっと、最近になってこのことをオープンにできたということ。—JPOP VOICE をみて下さい。中村ユキさんの漫画「我が家の母はビョーキです」に多大な影響を受け、心を開くことができたそうです。

12月の行事

<12月15日> 理事会